NT-proBNP	7456500
	担当部署
NTproBNP	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		緊急対応(24 時間)

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中～翌日				
生物学的基準範囲	心不全除外カットオフ値：125 pg/mL エクルーシス試薬　NT-proBNPⅡ　試薬添付文書				
臨床判断値	設定なし				
基準値				単位	pg/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
0	125	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因	特記事項なし				
臨床的意義	BNPと同様に心不全の存在診断、重症度診断、予後診断に有用である(推奨クラスⅠ、エビデンスレベルA)。ProBNPがプロセッシングを受け、血中にBNPとNT-ProBNPが1:1で分泌されるため、NT-ProBNPとBNPとの間には高い相関性が認められる。BNPのように血中で分解されることがないため半減期が長く、検体の安定性にも優れることから、BNPより精密な診断を可能にするといわれている。また、変動幅が大きいため、重症度に対する鋭敏な指標にもなり得るといわれている。しかし、腎臓で代謝されるため、腎機能低下により高値となることに留意する必要がある。 臨床検査法提要　改訂第 35 版　金原出版株式会社				